

教科「国語」シラバス

I. 学習の到達目標と評価の観点

(教科名) 国語 (科目) 国語Ⅱ	週の授業数	学科・学年・学級	使用教科書と補助教材
	2	中学 第3学年	『国語3』(光村書店) 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』(桐原書店) 『古典文法基礎ドリル 四訂版』(河合出版)
学習の到達目標	① 基本的な古文や漢文を、自らの力で主体的に読み解き、本文の内容を正確に把握する力を身につける(主体性を基本とした確かな読解力)。 ② ①に向けて、基本的な古文単語や文法事項、古典常識、文学史などの知識を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につける(知識の習得と、その運用能力)。 ③ 古典世界と現代社会との対比を通して、古代人の思想や思考、生活などを自ら探究し、想像する力を高める(探究力と想像力)。 ④ 古文や漢文の内容について、他者との対話や議論を通して、自分の考えを表現したり、他者の考えに共感したりする力を身につける(表現力と共感性)。		
評価の観点	基本的な古文単語や文法事項、古典常識、文学史などの知識を習得し、それらを文脈の中で活用する力を身につけているか。《知識・技能》		
	古典世界と現代社会との対比を通して、古代人の思想や思考、生活などを想像する力を高め、古文や漢文の内容について、他者との対話や議論を通して、自己の考えを表現する力を身につけているか。《思考力・判断力・表現力》		
	基本的な古文や漢文を、自らの力で主体的に読み解き、本文の内容を正確に把握する力や、他者との対話や議論を通して、他者の考えに共感する力を身につけているか。《主体性・多様性・協働性》		

【定期考査における観点別評価について】
年間5回の定期考査において、各回とも問題ごとに《知識・技能》《思考力・判断力・表現力》《主体性・多様性・共同性》の3観点における評価を行ない、点数化し、評定算出の基本資料とする。

【点数化が難しい科目や課題について】
A：「十分満足できる」状況と判断されるもの……………100% B：「おおむね満足できる」状況と判断されるもの………80% C：「努力を要する」状況と判断されるもの……………60% D：未提出、未実施……………0%

2. 学習計画及び評価方法等

※教育的効果を考え、事前に生徒に説明した上、扱う教材・内容を変更することもある。

	単元	学習のねらい	学習のポイント、使用教材等
1 学期 中間 考査 まで	① 助動詞「き・けり・ず」の習得（『解析』66.67.85頁） ②古典作品を読む(作品未定。『徒然草』『古今著聞集』など)。 ③漢文訓読	①助動詞「き・けり・ず」についての知識を定着させる。 ②古典作品を読み、文法事項や古典単語などに注意してゆく。また、その文章から分かる当時の社会や文化などを理解することで、現代とは異なる世界観を体感する。 ③返り点を復習しつつ、訓読の練習をする。また、歴史的仮名遣の読み方に注意しながら、正確に音読できるようにする。	*助動詞の活用や文法的意味などを覚える。さらに、その知識を活かして例文等の理解へと及ぶ。 *古典作品の読解を通して、文法を学ぶことの意義を自ら納得してゆく。 *使用教材 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』
1 学期 期末 考査 まで	①助動詞「つ・ぬ・たり・り」の習得（『解析』68.69.70頁） ②古典作品を読む(作品未定)。 ③漢文訓読	①助動詞「つ・ぬ・たり・り」のについての知識を定着させる。 ②古典作品を読み、文法事項や古典単語などに注意してゆく。また、その文章から窺い知ることのできる当時の社会や文化などを知ること、現代とは異なる世界観を体感する。 ③返り点を復習しつつ、訓読の練習をする。	*助動詞の活用や文法的意味などを覚える。更に、その知識を活かして例文等の理解へと及ぶ。 *古典作品の読解を通して、文法を学ぶことの意義を自ら納得してゆく。 *使用教材 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』
2 学期 中間 考査 まで	①助動詞「る・らる・す・さす・しむ」の習得。（『解析』74.86頁） ②古典作品を読む(作品未定)。 ③漢文訓読	①助動詞「る・らる・す・さす・しむ」のについての知識を定着させる。 ②古典作品を読み、文法事項や古典単語などに注意してゆく。また、その文章から窺い知ることのできる当時の社会や文化などを理解することで、現代とは異なる世界観を体感する。 ③返り点を復習しつつ、訓読の練習をする。また、歴史的仮名遣の読み方に注意しながら、正確に音読できるようにする。	*助動詞の活用や文法的意味などを覚える。さらに、その知識を活かして例文等の理解へと及ぶ。 *古典作品の読解を通して、文法を学ぶことの意義を自ら納得してゆく。 *使用教材 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』
2 学期 期末 考査 まで	①助動詞「む・むず・じ」の習得。（『解析』62-65頁） ②古典作品を読む(作品未定)。 ③漢文訓読	①助動詞「む・むず・じ」のについての知識を定着させる。 ②古典作品を読み、文法事項や古典単語などに注意してゆく。また、その文章から窺い知ることのできる当時の社会や文化などを理解することで、現代とは異なる世界観を体感する。 ③返り点を復習しつつ、訓読の練習をする。また、歴史的仮名遣の読み方に注意しながら、正確に音読できるようにする。	*助動詞の活用や文法的意味などを覚える。さらに、その知識を活かして例文等の理解へと及ぶ。 *古典作品の読解を通して、文法を学ぶことの意義を自ら納得してゆく。 *使用教材 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』
3 学期 期末 考査 まで	①古典作品を読む(作品未定。『論語』『蒙求』など)。 ②古典作品(中国古代文学)を読む（作品未定）。	①本文を読解し、内容説明ができるようにする。 ②これまでの学習を生かし、漢文訓読をスムーズにできるようにする。また、ある程度のまとまった文章を読み、中国の古代文学にも触れる。	*これまで習得した文法事項を活かしながら、文の構造への理解を深める。また、古代の価値観にも触れることで、古典世界への探究心を養成する。 *中国の古代文学に触れ、時代も場所も異なる人々の存在を考える。また、漢文を訓読するにあたり、古典文法の習得が必須であることを自覚する。 *使用教材 『基礎から学ぶ 解析古典文法 三訂版』

【成績評価の概要について】

(1) I 学期における評価の対象（国語Ⅱ）

- ① 中間考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価）
- ② 期末考査：100点（知識・技能や、思考力・表現力の評価）
- ③ 授業内外の課題や授業への取り組み姿勢などの平常点：40点（関心・意欲・態度などの評価）

(2) 学期評定の算出方法

- ① 国語Ⅰと合算し、評定を算出する。
- ② 国語Ⅰも、(1)の①と②は同様であるが、③は60点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。
- ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計400点に対し、平常点合計は100点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行う。

(3) 年度末評定の算出方法

- ① 国語Ⅰと合算し、評定を算出する。
- ② 国語Ⅰも、(1)の①と②は同様であるが、③は60点である(週あたりの授業時間が国語Ⅰが3時間、国語Ⅱが2時間であるため)。
- ③ 国語Ⅰと国語Ⅱの定期考査の素点合計1000点に対し、平常点合計は250点とし(素点：平常点＝8：2)、多面的評価を行なう。